



Rin Rin No.79

りんりん会報 平成26年5月発行



乳がん体験者の会
りんりんの会

*** 凛 (りん) として...自分のために***
*** 輪 (りん) として...仲間のために***
*** 鈴 (りん) として...社会のために***

風の柔らかさや陽ざしの温かさに春の息吹を感じさせられる季節になりましたね。皆さん、お変わりありませんか？

りんりんの会では、先月19日(土)市民病院職員休憩室にて、第7回りんりん総会を無事に終えることが出来ました。平成16年10月、1回目のお茶会を開催して以来9年6か月過ぎた今日のこの日を、皆さんと一緒に迎えられたことが奇跡のようにも感じ、また、吉田先生を始めとして、今まで支援して下さったたくさんの方々に助けていただいてここまで歩いて来られたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

7月から大崎市民病院が新たなシステムでスタート致しますが、りんりんの会では、患者さんが必要な時に、必要な場所で、必要な人と必要な支援を速やかに提供できるような形を目指しながら、先輩体験者として皆さんのお力になれることを微力ながらお返しして行きたい...と考えています。

“気軽に立ち寄れる”、“安心して相談できる”、“温かい雰囲気がある”、りんりんはいつでもそんな場所でありたい！と思っています。皆さんの温かいエールが原動力になります。今年度も“りんりん”をどうぞよろしくお願ひします。

* 平成25年度 第7回りんりん総会 & Dr吉田の乳がん講座 報告 *

- 平成26年4月19日(土)9:30～総会(決算報告・活動報告・26年度年間予定案)
- 10:10～Dr吉田の乳がん講座『Dr吉田の今日この頃』～ホッと一息 Tea Time Talk～

≪総会(決算報告・活動報告・年間予定案・役員選出等)の報告です。≫

- りんりんの会年間事業参加延べ人数...229名(年12回開催)
※おしゃれセミナー・日帰り移動研修会(川渡温泉～山ふところの宿 みやま～)にてハンドマッサージと温泉の旅・ヴァイオリン&ピアノ演奏会等、新しい企画を取り入れてみたところ、とても好評でした。
- りんりん事務所利用延べ人数...37名(年23回 第2・第4水曜日にオープンしました。)
※薬の副作用について・カツラや下着のこと・治療の辛さや家族との関係等の相談が多く、体験者の話を聞いて安心され、何度も足を運んでくださる方もいて、担当スタッフ(りんりん会員・ボランティアでの対応)は、毎回ホッとした気持ちでいっぱいになります。
- りんりん携帯電話相談延べ人数...12名・20回(19:00～21:00頃まで対応 **★4月～いつでも対応可能になりました!**)
※病気に対する漠然とした恐怖や不安、術前抗がん剤治療について体験した方の話が聞きたい...等、告知後や受診後に電話をくださる方が多く、個々に対応させていただいています。(現在は代表高橋が対応していますが、留守電の場合には追ってこちらから連絡を入れることもあります。失礼がありましたらお許しくださいね。)

≪Dr吉田の乳がん講座:『Dr吉田の今日この頃』～ホッと一息 Tea Time Talk～参加者の感想です。≫

- いろいろ盛りだくさんのお話をありがとうございました。旅行から読書などの趣味・気分転換をされているお話をお聞きして大変ためになりました。
- もっと難しいお話しと思っていたので、ホッとした気持ちで楽しい時間を過ごせました。いつも真面目な先生を見ていたので医者以外の先生を知ることが出来、ホッとしました。楽しかったです。
- プライベートのお話しがとても良かったです。
- 先生のお忙しい日程を割いてのお出でには敬服いたします。お話はさりげなく、爽やかに話いただき心が和みます。ありがとうございました。
- 人生の中に決断が必要ですね。家でウジウジしてないで、さあ出かけよう!!人生を楽しもう!!と思いました。明日のことは分らないので!

りんりんの会・確認事項です。

＜りんりんの会 会則の確認です。＞

- 定例会には、会員以外の方(ご家族・医療関係者)でも参加できますし、入会は随時可能です。
- 入会された方は、年会費として 2,000 円(資料、謝礼代等運営費として)を一括、あるいは 2 回に分けて納入していただいています。毎回の参加費 300 円(お茶代として)は、参加された時に受付でお願いします。
- これまで会に足を運んでいただいた方々(入会申し込みをされ、連絡先を明記された方)にも郵送で会報を送らせていただいておりますが、定例会には参加できませんが郵送のみ希望しますという方につきましては、切手・資料代として年間 1,000 円のご協力をお願いしています。(郵送を希望されない方はご連絡ください。)

＜参加する方々へ：約束事項の確認です。＞

- 会の中で知り得た個人情報は、皆さんの心の中に留めておき、口外しないことを基本にしています。
- 営業、特定団体や宗教への勧誘行為は禁止します。
- 患者間の心のケアを目的にしています。非難、中傷、過度の医療批判等のご遠慮下さい。
- 他会員、医療スタッフへの迷惑等が生じた場合、退会していただくこともあります。

りんりん事務所のご紹介です。

＜りんりん事務所利用の変更についてお知らせです。＞

- 5月・6月のみ毎週水曜日 PM1:00～4:00 オープンしています。

※現在、第2・第4水曜日にオープンしていますが、利用できる日を増やし、いつでも相談できるように変更してみました。

7月以降につきましては、新病院スタートに合わせて、事務所の利用曜日等の変更も検討中です。

- 三日町・正明薬局(長井医院隣り)の一室をお借りしています。体験者と一緒にお茶を飲みながら、ゆっくりとお話ししてみませんか?(駐車場は、薬局向かい長井医院第2駐車場、または隣りのレストラン駐車場可)

レストラン“パティーナ”を
ご紹介しま〜す!!

- ☺ OPEN 11:30～14:00(最終14:30～15:00頃まで)
- ☺ CLOSE 毎水曜日
- ☺ MENU A・B・C ランチ(例:パティーナ特製ランチ・カレーライス・中華粥など)
- ☺ 詳しくは電話でご確認ください (TEL:0229-22-5265)
- ☺ 静かな空間で、お友だちとゆっくり美味しいランチを堪能してみてくださいね!!

* 今後の定例会のご案内です。 *

- 5月24日(第4土)9:30～ 情報交換会(交流会)を予定しています。
参加された方々同士で気兼ねなくお話しが出来ます。一人で悩まないで、体験者の皆さんと一緒に情報交換しましょうね! 体験談や生活上のアドバイス等の情報を得ることでホッされる方もいます。
- 6月14日(第2土)9:30～ 東北大学病院乳がん看護認定看護師 金澤麻衣子さんを講師にお招きし、乳がん看護認定看護師さんのお仕事や患者会情報等をお話しいただきます。(吉田先生を通じてご紹介いただきました。)内容の濃いお話しですので、多くの方のご参加をお待ちしています。

父の死

私の父は開業医で、昭和ひと桁生まれの頑固親父でした。その父も7年前に他界し、病院も廃業、建物自体も取り壊され、今では更地になっています。

父は胃癌で亡くなりました。もともと食が細かったのですが、亡くなる1年ほど前からさらに細くなり、今思えば、最近痩せてきたが癌ではないかと母がよく言っておりました。もしそうだとでも何もしないだろうし、仕方がないだろうと私は考えていたので母の話は聞き流していました。そして、ぎりぎりまで休むことなく診療を続けていたのですが、体力的にしんどくなったので、近くの病院の知り合いの先生に電話して入院の段取りを付け、その日のうちに入院してしまいました。それから検査を受け、胃癌、しかも末期の切除不能状態と診断されました。父が入院したというので病院に行ってみると、家族が集められ病名が明かされました。しかし、私を含め家族の誰も驚きませんでした。手術不能といわれても、ああそうですかってな具合です。母なんか、「やっぱり！そんな気がしてた」なんて言う始末です。

父は、50年近くにわたり開業医として地域の方々の診療を担っておりました。昔は交通の便も悪く、雪深い山の中まで往診に行ったり、夜中に呼び出されて往診に行くこともしばしばで、また、入院患者も何十人も抱えていたので、土日もなく、毎日が当直のような生活をしておりました。風邪の患者を日に何十人も診るのに一度も風邪をひいたことがありませんでした。自分の事情で病院を休んだことも一度もなく、当然、家族旅行などというものもなく、いつも働いていました。歳をとってからは入院患者を無くして外来だけにしましたが、そういう生活をみてきたせいか、私には開業する気は全然ありません。

生前よく言っていたことが、これまで何人もの人を死なせてきた。だから、自分にそういうときが来ても生に執着することはないし、いつ死んでもいいと思っているというようなことを聞きました。学生の頃だったと思いますが、一度だけ聞いたことなのに印象深く覚えています。ですから、父は癌が見つかったもあと数ヶ月の命と聞いても、驚かなかつたし、慌てることもありませんでした。覚悟ができていたのだと思います。

若い頃の父の時代は、病気になったら死んで当たり前、手術はうまくいったら儲けものという考えがまだ漠然と残っていた時代でした。話を聞くと、今では考えられないような、というか、そうせざるを得ない時代だったようです。今に比べれば何も無い時代によくもまあそんなことをやったものだと逆に驚いてしまいます。今は、医学の進歩のおかげで治って当たり前という雰囲気が出ていて、自分は死なない、家族も死なないと考えているのではないかという印象を受けます。したがって、病気が治らない、あるいは亡くなったときには、治療が悪い、医者が悪い、病院が悪い、ミスを隠蔽しているなどと本気で思う人がいることが、医療者のストレスになっています。父も晩年には、自分でできるとして手を出して失敗したら、全て失うかも知れないから危ないことはしないと断っていました。医学が進歩してもやってみなければわからないというのは昔から変わらないのです。

父は自分の病気と予後を知り、さっさと閉院することを決め、家族に病院内部の器械や物品の処分を命じ、かかりつけの患者500人が路頭に迷うことのないよう、紹介状を全て自分で手書きし(実は私が代理で書かなければならないと思っていました)、後腐れなく入院後たった3ヶ月であの世に行きました。借金や後始末もなく、とてもいい死に方だったと感謝しています。

父に医者になれと言われたことは、ただの一度もないのですが、自分が医師になったのは、そういう父をみてきたからに相違ありません。父の最期は、手術をしていたため間に合いませんでした。手術を人任せにしてお見舞いなんかに行ったら叱られるに決まっています。それに、私は親の死に目に会いたくないので、むしろよかったと思っています。

宮城県の「がん情報」を集めたホームページ「がん情報みやぎ」のご案内です

<http://cancer-miyagi.jp>(運営:東北大学病院がんセンター先進包括的がん医療推進室)・身近な情報が満載です。